

【I】 次の表は、1876年、1914年の列強の植民地領有についてまとめたものです。下記の問い（問1～7）に答えなさい。

	本 国		植 民 地				合 計	
	1914		1876		1914		1914	
	面積	人口	面積	人口	面積	人口	面積	人口
イギリス	0.3	46.5	22.5	251.9	33.5	393.5	33.8	440.0
フランス	0.5	39.6	0.9	6.0	10.6	55.5	11.1	95.1
ロシア	5.4	136.2	17.0	15.9	17.4	33.2	22.8	169.4
ドイツ	0.5	64.9	—	—	2.9	12.3	3.4	77.2
イタリア	0.3	35.2	—	—	1.5	1.4	1.8	36.6
ベルギー	0.03	7.5	—	—	2.4	15.0	2.4	22.5
アメリカ	9.4	97.0	—	—	0.3	9.7	9.7	106.7
日 本	0.4	53.0	—	—	0.3	19.2	0.7	72.2

（単位：100万km²，100万人）

（木谷勤『帝国主義と世界の一体化』より）

問1 表から読み取った内容について誤っているものを、次の選択肢ア～キの中から三つ選びなさい。

- ア 1876年、1914年ともに植民地の面積は、イギリス、フランス、ロシアが圧倒的に多い。
- イ 1914年のアメリカと日本の植民地の面積・人口は、どちらも同じ数値である。
- ウ 1914年の本国と植民地の合計の人口数で、最も多いのはイギリスで、最も少ないのはベルギーである。
- エ 1876年から1914年の植民地面積の増加1位は、イギリスである。
- オ 1914年において、本国の人口より植民地の人口が多いのは、イギリス、ベルギーである。
- カ 1914年において、ドイツと日本の本国と植民地の合計面積と人口は、ほぼ同数値といえる。
- キ 1876年に植民地を有していなかった国のなかで1914年に面積を最も有したのはドイツである。

問2 イギリスの本国・植民地の合計面積・人口は、どちらも第1位です。この背景には、18世紀後半から19世紀初頭にかけてイギリスが最初に様々な分野で技術革新を達成したことがあります。この革新を説明する用語を漢字4文字で答えなさい。

問3 この革新により、イギリスは世界市場を圧倒し、19世紀半ばには「イギリスのもとの平和」と呼ばれる国際秩序を成立させました。このことをラテン語で、パクス＝～～と呼びます。その呼称を答えなさい。

問4 この時期の技術革新の一つに電信網の発達があります。①1830年代の電信の発明者と、②電信網を整備した通信社名の組み合わせとして正しいものを、次の選択肢ア～エの中から一つ選びなさい。

ア ①モールス ②ロイター通信

イ ①モールス ②タス通信

ウ ①リンカーン ②ロイター通信

エ ①リンカーン ②タス通信

問5 1876年に日本で起きた出来事として誤っているものを、次の選択肢ア～エの中から一つ選びなさい。

ア 金禄公債証書発行条例が制定された。

イ 国会開設建白書が提出された。

ウ 地租改正反対一揆が和歌山県で発生した。

エ 廃刀令がだされた。

問6 1914年に世界で起きた出来事として誤っているものを、次の選択肢ア～エの中から一つ選びなさい。

ア オーストリア皇太子が、サラエボで暗殺された。

イ パナマ運河が開通した。

ウ 日本で原敬が政友会総裁に就任した。

エ 中国は、日本の対華21か条要求を受諾した。

問7 列強は軍事力を背景に植民地を獲得していきました。こうした帝国主義は、アフリカやアジアに大きな変化をあたえました。幸徳秋水は、1901年に『廿世紀之怪物 帝国主義』を著しています。次に掲げたその一部分を読んで、幸徳秋水が、帝国主義の何を批判しているか説明しなさい。

吾人は世界の平和を欲す、而して帝国主義は之を攪乱する也。吾人は道德の興隆を欲す、而して帝国主義は之を残害する也。吾人は自由と平等を欲す、而して帝国主義は之を破滅する也。吾人は生産分配の公平を欲す、而して帝国主義は之が不公を激成する也。

【Ⅱ】 次の資料 1 に関して述べた下記の問い（問 1～5）について答えなさい。

資料 1 「鋤鋤捨てて」1917 年（筑摩書房「近代漫画Ⅴ 大正前期の漫画」より）

著作権の関係により風刺画は非公開

問 1 第一次世界大戦により、日本の輸出は大幅に拡大し、「大戦景気」と呼ばれる好景気となりました。資料 1 は、そのことにより生じた人びとの移動を描いた風刺画です。どこから、どこへ人びとは移動しているのでしょうか、説明しなさい。

問2 資料1に描かれた人びとの移動先での生活に関して述べた内容について、正しいものを、次の選択肢ア～ウの中から一つ選びなさい。

- ア 大戦景気に乗じて「成金」と呼ばれる富裕者となった。
- イ 文化住宅に住み、文明的な生活をおこなった。
- ウ 悪い環境の安価な住居が集まるスラムで生活し、結核などの伝染病にかかる者もいた。

問3 資料1で描かれた人びとの移動先での労働環境やそれに対する対応に関して述べた内容について、誤っているものを、次の選択肢ア～エの中から一つ選びなさい。

- ア 賃金が安く、引き上げを求めてストライキを行った。
- イ 帰宅後は賭博をしたり、寄席にて遊んだり、日給を浪費してしまう者が多かった。
- ウ 午前9時に出勤して、午後5時に退勤するような勤務時間であった。
- エ 労働者の権利を求める組織として労働組合などを結成した。

問4 資料1が描かれた時期に政府は農村で起きている問題を懸念し対策を講じました。当時の農村の状況や政府の対策について述べた内容について、誤っているものを、次の選択肢ア～エの中から一つ選びなさい。

- ア 内務省は、役人や有力者が中心となって講習会などを行っている農村を模範村として表彰し、全国へ広めた。
- イ 1900年前後には農家の約4割が小作地となり、地主は耕作をおこなわず、高額の小作料と作物の販売益を得る寄生地主制が広がった。
- ウ 小作人は、小作料の低下を求めて、小作争議を起こすようになった。
- エ 農家の女性はとくに働かず、家庭を守ることに専念していた。

問5 この頃、吉野作造は、主権を天皇におく一方で、民衆の利益や幸福の実現こそ政治の役割であるとした主張を唱えました。その主張を漢字4文字で答えなさい。

【Ⅲ】 次の史料1に関して述べた下記の問い（問1～8）に答えなさい。

史料1 寛文6年（1666）2月2日「諸国山川掟」（現代語訳）

- 一、近年新田畑の開発があまりにもすすみすぎて、草木の根までねこそぎに掘り取ってしまうため、風雨があるとすぐ土砂が河川に流れ込んで川床が高くなり、流水が円滑を欠いて洪水になるので、今後草木の根まで掘り起こすことを禁止する。
- 一、河川の上流の山方左右の樹木のないところは、今春から早速植樹をして風雨で土砂が流されないようにすること。
- 一、前々より川敷の中で河原になっているところを掘り起こして田畑にしたり、また竹木葎萱などを植えて川敷に新しい築出をつくるなどして川敷を圧迫しないように。また同時に山中の木立を焼き払ってつくる焼畑も今後一切禁止する。

（大石慎三郎『江戸時代』より）

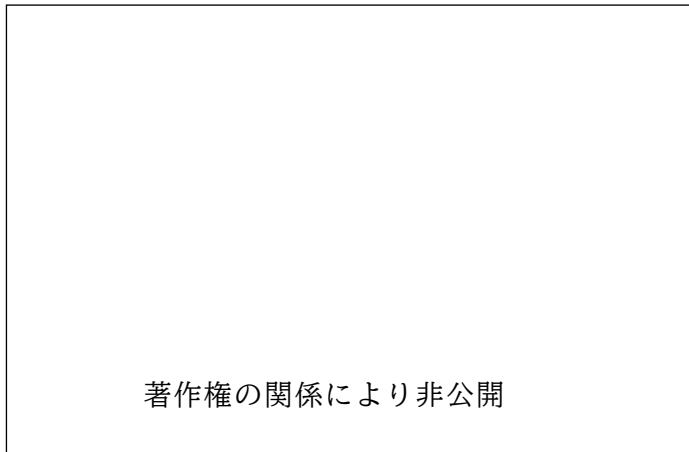
問1 江戸時代、とくに17世紀は「大開発の時代」とも呼ばれ、年貢米の収入を増やすために新田開発を進め、耕地面積が増加しました。江戸時代前期の新田開発について述べた内容のうち誤っているものを、次の選択肢ア～エの中から一つ選びなさい。

- ア 全国の石高は、慶長5年（1600）に約1851万石であったが、元禄10年（1697）には約2587万石となり、736万石も増加した。
- イ 山野を切り開いたり、湖沼を干拓したりするなどして、新田開発を進めた。
- ウ 幕府や藩が商人資本を借りて開発を進める町人請負新田も多く行われた。
- エ 全国で備中鍬が用いられるようになり、より深く耕せるようになった。

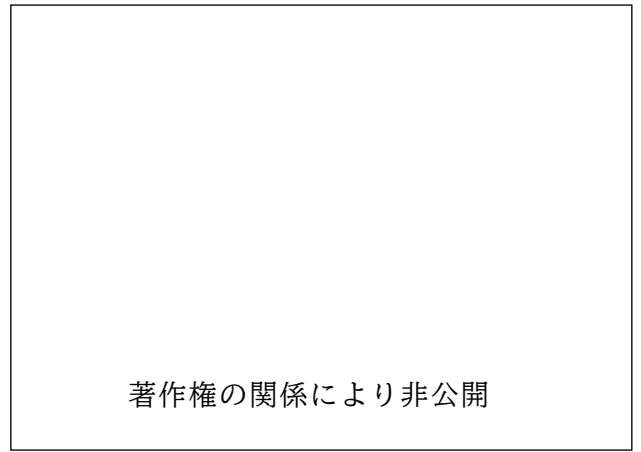
問2 史料1は、過剰な新田開発によって生じた問題に対して、江戸幕府がだした法令です。この法令の内容から、①過剰な新田開発による問題と、②幕府がとった対応策について、史料の内容をもとに説明しなさい。

問3 享保期（1716～1736）の幕府領や関東における新田開発の状況を調べるため、次の2つのグラフについて考察しました。その考察として誤っているものを、次の選択肢ア～エの中から一つ選びなさい。

グラフ1 幕府領の総石高・年貢収納高



グラフ2 関東の石高の推移



(いずれも武井弘一『江戸日本の転換点』より)

- ア グラフ1から、幕府領の総石高は1700年までに約300万石から約400万石に増加しており、「大開発の時代」と呼ばれる17世紀の全国の動向と同様の傾向を示している。
- イ グラフ1から、幕府領の総石高は、1730、40年代までは順調に増加し、1750年代以降も総石高も年貢収納高も増加の傾向を示している。
- ウ グラフ2から、関東の石高は、元禄15年には466万石と、慶長3年から約1.5倍にもなっており、全国的動向と同様の傾向を示している。
- エ グラフ2から、幕末期には関東の石高は増加していない。

問4 8代将軍徳川吉宗が行った享保の改革では、江戸日本橋に新田開発を奨励する高札が建てられました。これに応じて全国で新田開発が行われました。享保期の新田開発地として誤っているものを、次の選択肢ア～エの中から一つ選びなさい。

- ア 飯沼新田（現茨城県）
- イ 紫雲寺潟新田（現新潟県）
- ウ 見沼新田（現埼玉県）
- エ 五郎兵衛新田（現長野県）

問5 グラフ2をみると、関東の石高は、天保5年の数値は元禄15年に比べ増加しているものの、その間130年余りのうち、どの時代までが開発のピークであったかわからないため、この点をさらに調べようと思いました。調べてみると、享保改革の時に活躍した田中丘隅が次のような記録（『民間省要』）を残していました。グラフ1、2や、この記録の内容を説明しながら、関東の石高の増加のピークはいつ頃だったか、自身の考えを述べてください。

「江都の四面、五、六里か間の空地、家と成、田となりて、今錐^{きり}を立るの透間^{すきま}なし」

*江都の四面：江戸のまわり、江戸の四方

*里：江戸時代に用いられた距離の単位。1里＝約4キロメートル

問6 江戸時代、新田開発がピークを迎えると、限られた耕地にて生産性を高めるようになりました。そのため肥料は重要な役割を果たしました。江戸時代の肥料について述べた内容として誤っているものを、次の選択肢ア～エの中から一つ選びなさい。

ア 江戸時代の肥料は、山野からとる刈敷^{かりしき}が一般的であった。

イ 江戸や大坂の都市周辺地域では、都市民たちの排泄物^{しもづえ}（下肥）を購入し、肥料として野菜などを生産した。

ウ 鰯を干して肥料にした干鰯^{ほしか}などが、商品作物の生産地で使われ始めた。

エ 油粕は、菜種などから油をしぼり取った後に残ったもので、肥料として使用されなかった。

問7 江戸時代後期になると、都市江戸の周辺地域には江戸に出荷する特産品が生まれました。生産地域と特産品の組み合わせとして誤っているものを、次の選択肢ア～エの中から一つ選びなさい。

ア 野田（現千葉県野田市）－ 醤油

イ 練馬（現東京都練馬区）－ 小松菜

ウ 行徳（現千葉県市川市）－ 塩

エ 狭山（現埼玉県狭山市）－ 茶

問8 江戸幕府がとった農村支配の政策であるア～エについて、古いものから順に並べなさい。

ア 分地制限令をだした。

イ 旧里帰農令をだした。

ウ 改革組合村の結成を命じた。

エ 田畑永代売買の禁令をだした。